

# トオカツフーズグループのDX取り組み

---

2023/06/30

## 当社DX推進の取り組みについて

トオカツフーズグループでは2020年に経営ビジョン「2020宣言！」を策定し、実現に取り組んでおります。このビジョン実現にDX推進は不可欠な取り組みとして位置づけており、今般、「トオカツフーズグループのDX取り組み」として、DX基本戦略をまとめました。今後、一層のDX推進強化をはかり、経営ビジョン「2020宣言！」の実現に取り組んでまいります。

### 2020宣言！

わたくしたちトオカツフーズグループは  
50年間の取り組みをベースに これからの10年間を見据え  
あらたに日清製粉グループの総合力を積極的に活用し、  
中食（外食への供給を含む）事業で新しい価値・製品・サービスを創造し  
お客さま・お得意先さま・わたくしたちの発展・成長をめざします

また、今後のDX推進の取り組みにつきましては、適宜、弊社ホームページのお知らせ等に記載いたします。

トオカツフーズ株式会社  
代表取締役社長  
池田 晋一

# トオカツフーズグループの考えるDXとは

当社は、中食製品を中心に製造し、お店さまやお客さまにお届けすることを主たる事業としています。当社におけるDX取り組みとしては、当面は、ものづくりにおける改革を中心に進め、オペレーショナル・エクセレンスを核としてトオカツの競争力を高めていきたいと考えています。一方、経営ビジョンにある事業競争力を高めるための中食ワン・ストップ・ソリューション・カンパニーの実現に向けてもデジタル技術の活用は不可欠であり、ものづくりDX取り組みで得た技術・知見・人材を順次展開していきます。

## 働き方改革

- ・本社・工場間の業務分担変更
- ・コミュニケーション方法の多様化と協働の仕組みづくり
- ・データ分析等による意思決定の高度化・迅速化
- ・リモート・リアルの最適MIX
- …etc.

## ものづくり改革

- ・製造計画・スケジュール最適化
- ・工程進捗のリアルタイム把握
- ・データにもとづく改善・改革
- ・製造・品質管理の自動化・支援
- ・工場内物流・仕分けの省人化・ロボット化
- …etc.

## バックオフィス業務改革

- ・RPA等を活用した業務改善
- ・クラウド等活用による改善スピードアップ
- ・工場業務の全社集中化や標準化・効率化
- …etc.

## 工場業務改革

- ・ものづくりに集中する為の業務負荷軽減
- ・生産状況の見える化とデータ活用能力強化
- ・工場をまたいだ改善・協働の基盤確立
- …etc.

## 開発・表示・購買業務改革

- ・開発・表示作成業務のリードタイム短縮
- ・ワークフロー見直し・業務分担見直し
- ・転記・確認作業を自動化・省人化
- …etc.

各種技術を連携・活用

### プロセス改善・改革技術

・業務設計 ・データ分析 ・マーケティング etc.

### 設備・装置技術

・ロボット ・搬送 ・検査 ・測定 etc.

### デジタル化技術

・IT ・AI ・IoT ・クラウド etc.

# DX推進部の位置づけと人材育成

DXは、仕事そのものの改革であり、実行の主体は営業開発・生産・管理といった各ビジネス部門となります。

この支援・推進の為、2022年7月にDX推進室(現:DX推進部)を設置しました。

同部では、各ビジネス部門の改革を支援するとともに、DXを推進していく環境づくり、ビジネス部門で将来必要になるであろうデジタル技術の先行研究・開発等を行っていきます。

## DXにむけた改革の主役は各ビジネス部門

### DX推進部

#### DXを すすめる 環境づくり

人材獲得・育成、アジャイルなシステム開発基盤(RPA/帳票電子化ツール)等の整備

#### DXの アイデア 実現を支援

各部門からの要望やデータ分析や業務分析にもとづく課題仮説から、改善・改革アイデア組み立て、実現していく

#### AI・IoT等の 研究・開発

ビジネス部門に先行して新しい技術活用に向けた研究・開発を実施

#### 先行DX プロジェクトの 推進

生産管理システム(ToPS)やラベル作成システムなどの部門横断型・戦略的重要度の高いプロジェクトの共同推進

#### DX推進を支える人材育成・獲得

- 社内公募によりビジネス部門からDX推進メンバーを選抜。半専従・サポーターとして、具体的業務改善・改革を通して学ぶ取り組みを開始。(2022年11月に開始の第1期メンバーは16名。任期は約1年半。第2期は2023年10月を予定。第1期メンバーと任期をラップさせ、学んだことを継承する仕組みを確立する。)
- 従来よりデータ分析の経営への活用は進めてきたが、DX推進部では、データ活用の専門家としてデータエンジニアの育成も行う。
- DX案件プロジェクト推進に際しては、外部コンサルタントや専門家の支援を受け、社内メンバーと協働していくことで社内人材の育成をはかる。
- 外部人材登用も含め、DX推進部の体制拡充を進める。

# DX推進システム基盤の構築について

かねてよりデジタル活用については積極的に行っておりましたが、一層のDX推進に向け、「ネットワーク整備」「システム開発基盤整備」「データベース環境整備」をITシステム・デジタル技術活用環境強化の軸として進めていきます。

## 自由度が高く、 セキュリティが 確保された ネットワークの 整備

- ゼロトラストネットワークの今年度中の導入。
- リモートワークや外部との協業・協働できる環境の整備。
- IoT機器などを安全に導入・活用できるネットワーク基盤の確立。

## ビジネス部門でも 利用できる 簡易開発基盤の 構築

- RPA(PowerAutomate)、帳票電子化ツール(XC-GATE)等の簡易開発ツールの活用及び、Pythonとの組み合わせ開発を実現。
- これらを活用する人材教育もあわせて実施。
- スマホ・タブレット・ラズベリーパイなどの安価なデバイスをビジネス活用できる技術基盤を確立。

## データ活用を 促進する DWH整備と 活用レベルをあげる データレイク 環境構築

- ビジネスにおけるデータ分析・活用を更に徹底。
- DX推進部でのデータエンジニアの育成とビジネス部門へのデータアナリスト展開。
- デジタルツイン化した製造実績データの活用レベルを上げるデータレイク環境の構築。

## DX推進の取り組み管理指標

当社において、経営ビジョン実現にDXの取り組みは必要不可欠ですが、DX計画として分離したものではなく、具体的な取り組みは各部門の活動として、予実管理・活動計画管理のマネジメントシステムの中で、PDCA管理されております。予実・活動計画にDX視点・発想が取り込まれ、結果として、経営ビジョンに掲げた事業構造変革の達成、オペレーショナルエクセレンスが実現され、収益性改善にあらわれてくると考えます。一方で、DX推進の取り組み自体は、業務改善成果・人材・基盤整備で指標を設定し、その推進をはかっていきます。

### 業務改善 成果

- 転記や集計業務などのPC操作や手作業の工数低減（10,000時間/年）
- DX化を進める業務システムの順次開発・導入とこれによる工数低減・リードタイム短縮（中期達成項目：デリカ生産管理、冷凍生産管理、ラベル表示作成、入荷・入出庫管理、規格書作成）

### 人材

- ビジネス部門の業務改善のコアとなるDX推進メンバーを毎年15名程度育成
- データエンジニアまたはデータアナリストとして業務ができる社員を各部門に配置
- IoT・AI等の技術活用ができる人材・組織を整備

### 基盤整備

- セキュリティや活用柔軟性を改善するネットワーク基盤の整備
- RPAや帳票電子化ツールなどシステム開発基盤を構築（利用を希望する社員への提供100%化を実現）